

森林再生活動

★高尾小仏植樹祭2018 (2018年9月24日、東京都八王子市裏高尾町 都立高尾陣場自然公園内)

主催：NPO法人国際ふるさとの森づくり協会(レナフォ)
共催：中日本高速道路(株)(NEXCO中日本)
後援：東京都環境局、八王子市
助成：イオン環境財団、国土緑化推進機構「緑の募金」
協賛：AOI TYO Holdings(株)
協力：社会福祉法人進和学園いのちの森づくり友の会
主な参加団体：東京エレクトロン(株)、グリーンフレンズ、やまぶき会



中央自動車道・小仏トンネルの掘削残土置場(約9000㎡)で生物多様性豊かな森づくりを目指す第2回植樹祭。今回は内閣官房東京オリ・パラ競技大会推進本部による「beyond2020プログラム」の認証活動として開催した。晴天に恵まれ、家族連れら約280人が参加し、昨年の隣接地、高尾山登山道沿いの斜面1,080㎡に32種類約4,000本を植えた=写真④「冬場の採光と道路の凍結に配慮を」との地元要望を受けて落葉樹の割合が50%に増やされ、植樹地は高さ8m長さ70m約30度の傾斜地のため3段の丸太土留めを1m毎に築くなど安全策が講じられた。樹種紹介コーナーではクイズ方式で行われたポット苗の説明に歓声が沸いた=写真⑤。

植樹後、昨年の場所で野草を抜く育樹作業がNEXCO・植樹リーダーら約25人によって行われた=写真⑥。

★湘南国際村レナフォ連携の森「10年の森を観る」(2018年5月20日 神奈川県横須賀市湘南国際村)

さわやかな日和の中30人が参加した。2009年の第1回連携の森植樹祭に参加した11人のほか神奈川県建築士会の皆さんが5人、植生工学士を含めレナフォ関係者は9人。開会式で高野理事長が10年前からの植樹活動の経緯や森を観る会の趣旨などを説明し、植えた後の木々への関心を持ち続けることの楽しみや今後の活動へのレナフォ参加を呼びかけた=写真。



植樹場所には、植えた時期を書いた小看板が掲示され、植樹後の年数や植栽地の地形、土壌などにより異なる苗木の成長度合いを観察して回った。午後は2009年に植えた樹林に入り「10年の森」を堪能した後、2017年の専門家研修で植えた区域で育樹作業に汗を流した。

◆参加者の主な感想

「2009年に我が手で植えた木の成長を見て楽しかった」「10年後も是非参加したい。目標が出来た」「毎年育樹をかねて開催してほしい」「草抜きした場所に愛着を感じた。気持ちが良かった」「ヨモギなど野草にも出会えた。今日は良いことがたくさんあった」

★高尾小仏育樹祭2018 (2018年6月23日 東京都八王子市裏高尾町)

主な参加団体：NEXCO中日本、大林組、地球の緑を守る会、進和学園、研進、ハッピーフルーツ、ホープスカイ

約2600本を植えた第1回目植栽地で晴天の下、50人が参加した=写真④。冬場に2回の降雪があり3月には苗木も枯れたように見えたのが、一面にセイタカやイタドリなど80種位の野草が繁茂。倒れた状態の苗木にも若葉やひこばえが出ていて、枯れはほとんど見られなかった。作業は斜面の下部から全員が一列に並んで上がりながら草を抜き、蕨を切るなどした=写真⑤。藁の下になった苗は根を傷めないよう無理に起こさないで自立を促すなど慎重に進め、約1時間半で終えた。



レナフォ主催事業

★レナフォ設立十周年記念講演 (2018年10月20日 横浜市中区本町 ヨコハマ都市創造センター)



◆第一部 創立十周年基調講演
「森と文明の物語～環境考古学から見た森林の位置付け」
～静岡県の森の防潮堤～
ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田喜憲氏

安田教授の基調講演(趣旨は巻頭言参照)は、歴史的事実に基づく広い視野に立った話を力強く語られました。そして結びで、約60人の参加者を前に「植樹活動には自信を持って取り組み、活動の輪を広げていってほしい」と呼びかけました=写真。続いて安田教授の指導のもと、静岡県で森林再生の実践を進める2例が紹介されました。

浜松市のNPO法人「縄文楽校(じょうもんがっこう)」副理事長、鈴木信行氏は「市民でつくる浜松市森の防潮堤」と題して、遠州灘海岸に宮脇方式のやり方で主に常緑広葉樹を植える活動を報告。地元の企業・自治体・学校等に呼びかけてネットワークづくりを進めて実績をあげているユニークな方式を紹介しました。

同県経済産業部理事、前嶋康寿氏は「新しい未来を拓く世代と植樹」と題して、同県が静岡市に創設する技術者育成の大学校敷地周縁部に宮脇方式による植樹を、地域住民の参加によって行う計画を紹介。「次世代自動車やAI、IOT等将来の技術を学ぶ校舎に、周辺地域の景観とマッチした豊かな学校の森を、子ども達の参加でつくり上げる」と決意披露しました。この森づくり計画には、仙台市の一社・森の防潮堤協会が協力しています。

◆第二部 活動報告会(協力2団体とレナフォから)

▼NPO法人時ノ寿の森クラブ理事長、松浦成夫氏「スギ・ヒノキの放置林を豊かな広葉樹の森に」～静岡県掛川市で、荒れた放置林に広葉樹を植えて再生し、森の幼稚園等で里山を活用するなど意欲的な活動を報告。

▼一社・森の防潮堤協会理事長、日置道隆氏「災害からいのちと財産と心を守る森の防潮堤」～3・11東日本大震災の被災地で自治体などと協力して主に海岸地域で精力的に進める宮脇方式の森づくり活動と、自らが住職を務める寺の森林再生で採用した宮脇方式との出会いについて紹介した。

▼NPO法人国際ふるさとの森づくり協会事務局長、高橋秀行氏「レナフォ10年の歩み、植生工学士の活躍」～リーマン・ショック直前、2008年9月10日の創立から満10年を迎えたレナフォの取り組みと成果を報告。今後への抱負を表明しご支援ご協力をお願い=写真。



◆懇親会

記念講演会・活動報告会に続いて隣接した会場で開催。35人が参加して安田教授はじめ報告会の講師の皆さんとの名刺交換、飲食懇談で懇親を深めました。また、9月の植樹祭を紹介する新作の動画「高尾小仏植樹祭2018」が披露されました。

★2018年臨時総会 (2018年9月15日 横浜西区 神奈川県民センター)

レナフォ正会員の除名と定款の一部改正を議題に開催しました。除名案件はレナフォや事務局役員に対する誹謗中傷並びに業務妨害行為を理由に元事務局員今井康二氏に対するもの。除名理由説明に続いて本人が弁明を行い、採決の結果全会一致で議決されました。定款の改正は、従たる事務所や会員の入会及び資格要件の条項などで一部改正案が審議され、修正を加えたくて議決されました(改正定款はレナフォのホームページ参照)。

★2018年通常総会 (2018年10月20日 横浜市中区海岸通り 万国橋会議センター)

記念講演会に先だって、同日午前開催。議案は2017年度事業報告および決算報告▽2018年度事業計画および予算▽役員人事の3件。いずれも提案どおり承認されました。報告案件が1件あり、定款の改定について報告しました。